

(案)

ブプロフェジン 農薬蜜蜂影響評価書

2026年9月10日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	6
4. 作用機作	6
5. 適用病虫害の範囲及び使用方法	6
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	7
1. ミツバチに対する安全性に係る試験	7
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）	8
2.1 成虫単回接触毒性試験	8
2.2 成虫単回経口毒性試験	9
2.3 成虫反復経口毒性試験	10
2.4 幼虫経口毒性試験	11
3. 花粉・花蜜残留試験	12
4. 蜂群への影響試験	12
III. 毒性指標	13
1. 毒性試験の結果概要	13
2. 毒性指標値	13
3. 毒性の強さから付される注意事項	14
IV. 暴露量の推計及び暴露ごとのリスク評価結果	14
1. ミツバチが暴露しないと想定される適用	14
2. ミツバチが暴露する可能性がある適用	14
V. リスク評価結果（まとめ）	17
評価資料	18
公表文献	18

＜経緯＞

令和 8 年（2026年）5 月 7 日

農業資材審議会への諮問

令和 8 年（2026年）9 月 1 0 日

農業資材審議会農薬蜜蜂影響評価部会
(第22回)

＜農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿＞（第 22 回）

（委員）

五箇 公一

山本 幸洋

（臨時委員）

横井 智之

（専門委員）

永井 孝志

中村 佳子

並木 小百合

（専門参考人）

與語 靖洋

ブプロフェジン

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

- 1.1 申請者 日本農薬株式会社
- 1.2 登録名 ブプロフェジン
2-ターシャリーブチルイミノ-3-イソプロピル-5-フェニル-3,4,5,6-テトラヒドロ-2H-1,3,5-チアジアジン-4-オン
- 1.3 一般名 buprofezin (ISO)
- 1.4 化学名
IUPAC名 : (2Z)-2-(*tert*-butylimino)-3-isopropyl-5-phenyl-1,3,5-thiadiazinan-4-one

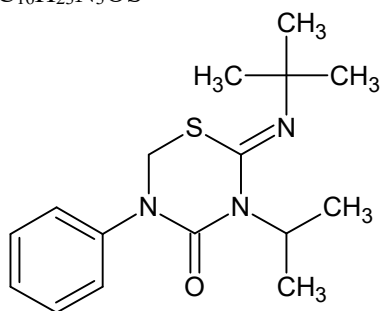
CAS名 : (Z)-2-[(1,1-dimethylethyl)imino]tetrahydro-3-(1-methylethyl)-5-phenyl-4*H*-1,3,5-thiadiazin-4-one
(CAS No. 953030-84-7)
- 1.5 コード番号 NNI-750、ST-29285

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式

C₁₆H₂₃N₃OS

構造式



分子量

305.44

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果
色調・形状			99.0	目視	類白色粉末状固体
臭気			99.0	官能法	刺激性硫黄臭
密度			99.0	OECD 109	1.18 g/cm ³ (20 °C)
蒸気圧			99.6	OECD 104	4.2× 10 ⁻⁵ Pa (20 °C)
溶解度	水		99.9	OECD 105	0.387 mg/L (20 °C)
	有機溶媒	アセトン	99.0	OECD 116	253 g/L (20~22 °C)
解離定数 (pK _a)			99.0	OECD 105	5.23 (20 °C)
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})			98.4	OECD 117	4.80
加水分解性			98.3	EPA 161-1	半減期 51 日 (25 °C、30 日間、pH 5) 半減期 378 日 (25 °C、30 日間、pH 7) 半減期 396 日 (25 °C、30 日間、pH 9)
水中光分解性			>95	EPA 161-2、 EEC Council directive 91/414/EC	半減期 46.1 日 (滅菌緩衝液、pH 4、25±1 °C、 612.3 W/m ² 、300~800 nm) 半減期 59.0 日 (滅菌緩衝液、pH 7、25±1 °C、 612.3 W/m ² 、300~800 nm) 半減期 103.0 日 (滅菌緩衝液、pH 9、25±1 °C、 612.3 W/m ² 、300~800 nm)

試験項目	試験方法	試験結果
土壌吸着係数	OECD 106	$K^{ads}_{Foc} = 2230$ (1種類の国内土壌)
土壌残留性	47農政 第2538号	粒剤、水田土壌 沖積埴壌土 半減期 151.3日 (土壌の深さ0~10 cm、SFOモデルによる推定値) 火山灰埴壌土 半減期 95.8日 (土壌の深さ0~10 cm、SFOモデルによる推定値) 水和剤、水田土壌 沖積埴壌土 半減期 32.6日 (土壌の深さ0~10 cm、SFOモデルによる推定値) 火山灰埴壌土 半減期 18.4日 (土壌の深さ0~10 cm、SFOモデルによる推定値) 水和剤、畑地土壌 火山灰埴壌土 半減期 64.0日 (土壌の深さ0~10 cm、SFOモデルによる推定値) 洪積埴壌土 半減期 81.3日 (土壌の深さ0~10 cm、SFOモデルによる推定値)

3. 申請に係る情報

ブプロフェジンは、2025 年 3 月時点で、米国、豪州、EU、韓国等の地域・国等で登録されている。

4. 作用機作

ブプロフェジンはチアジアジン骨格を有する殺虫剤で、対象害虫のキチン質の生合成を阻害することにより殺幼虫効果を示すと考えられている。

(IRAC 分類：16※)

※ <https://irac-online.org/>

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法 (14 製剤、別添 1 参照)

- ・アプロード水和剤
(ブプロフェジン 25.0 %水和剤)
- ・アプロード粉剤 D L
(ブプロフェジン 1.5 %粉剤)
- ・日農アプロードパダン粒剤及び S T アプロードパダン粒剤
(カルタップ 4.0 %・ブプロフェジン 2.0 %粒剤)
- ・アプロードロムダンモンカット F 粉剤 D L
(テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル粉剤 2.0 %粉剤)
- ・アプロードフロアブル
(ブプロフェジン 20.0 %水和剤)
- ・アプロードロムダンモンカットエアー
(テブフェノジド 7.5 %・ブプロフェジン 15.0 %・フルトラニル 15.0 %水和剤)
- ・アプロードエースフロアブル
(フェンピロキシメート 4.0 %・ブプロフェジン 20.0 %水和剤)
- ・ワイドナーエース粉剤 D L
(ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤)
- ・日農ビームアプロードスタークル粉剤 5 D L
(ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤)
- ・アプロードモンカットエアー
(ブプロフェジン 20.0 %・フルトラニル 20.0 %水和剤)
- ・アプロードゾル
(ブプロフェジン 40.0 %水和剤)
- ・アプロードイオウフロアブル
(硫黄 35.5 %・ブプロフェジン 4.0 %水和剤)
- ・アプロード粒剤
(ブプロフェジン 2.0 %粒剤)

II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

ブプロフェジンのミツバチに対する安全性に係る試験を表 1 に示す。

表 1：ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		1	0
幼虫経口毒性試験		2	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

*（参考）公表文献の検索結果（資料 8）

申請者により、Web of Science（Core Collection）を用いて、2009 年 7 月～2024 年 7 月を対象期間として、有効成分名及びブプロフェジンを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索し、評価対象となる影響、評価対象となる生物種等についてガイドラインで定めるキーワードで絞り込みが行われた（システマティックレビュー）。

その結果、すべての分野の文献 626 報のうち、表題と概要に基づく適合性の有無の評価の結果「適合性なし」以外の文献で、「生活環境動植物及び家畜に対する毒性の分野」に該当する文献は 6 報であった。このうち、全文に基づく適合性の有無の評価の結果「適合性あり」の文献は 1 報あったが、試験生物として「セイヨウミツバチ（*Apis mellifera*）」を用いている文献は認められなかった。

また、国際機関や欧米の評価機関の評価書に引用されている文献のうち、試験生物として「セイヨウミツバチ（*Apis mellifera*）」を用いているものが 1 報認められたが、製剤を被験物質とした試験に関するものであり、毒性指標の検討に活用し得るものではなかった。

なお、公表文献に関する情報募集（2026 年 3 月 20 日～2026 年 4 月 18 日）で寄せられた情報はなかった。

2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は>200 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、1996 年）

被験物質	原体					
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/5反復、10頭/区					
準拠ガイドライン	EPA Guidelines No.141-1、EPPO 170					
試験期間	72 h					
投与溶媒(投与液量)	アセトン(1 µL)					
暴露量 (設定量に基づく有効成分値)(µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	5	10	50	100	200
死亡数/供試生物数 (48 h)	1/50 (2.0 %)	0/50	1/50	1/50	1/50	5/50
観察された行動異常	なし					
LD ₅₀ (µg ai/bee) (48 h)	>200					

2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >163.54 µg ai/bee であった。

表 3：単回経口毒性試験結果（資料 2、2001 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/5反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	OECD TG213		
試験期間	48 h		
投与溶液(投与量)	蜂蜜 (200 mg/区)		
助剤(濃度%)	アセトン(約10 %)		
暴露量 (摂餌量に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (50 %ショ糖溶液) (死亡率 %)	対照区 (50 %ショ糖溶液＋ アセトン) (死亡率 %)	163.54
死亡数/供試生物数(48 h)	1/50 (2.0 %)	0/50 (0 %)	0/50
観察された行動異常	なし		
LD ₅₀ (µg ai/bee) (48 h)	>163.54		

2.3 成虫反復経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた反復経口毒性試験が実施され、10 d LDD₅₀ は >171 µg ai/bee/day であった。

表 4：反復経口毒性試験結果（資料 3、2014 年）

被験物質	原体					
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 4反復、10頭/区					
準拠ガイドライン	OEPP/EPPO Bulletin 40、CEB 230					
試験期間	10 d					
投与溶液	50 %ショ糖溶液					
助剤(濃度%)	なし					
暴露量 (摂餌量に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee/day)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	9.4	20	42	90	171
死亡数/供試生物数 (10 d)	2/40 (5.0 %)	2/40	1/30*	2/40	1/40	1/40
観察された行動異常	なし					
LDD ₅₀ (µg ai/bee/day) (10 d)	>171					

*20 µg/bee/day 試験区は 1 反復が 3 日目に偶発的な事故により喪失したため、死亡率の計算から除外

2.4 幼虫経口毒性試験

(1) 幼虫経口毒性試験 1

セイヨウミツバチ幼虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、72 h LD₅₀ は>100 µg ai/bee であった。

表 5：幼虫単回経口毒性試験結果（資料 4、2014 年）

被験物質	原体	
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)幼虫(4日齢時投与)/ 3反復、12頭/区	
準拠ガイドライン	OECD TG237	
試験期間	72 h	
投与溶液	ローヤルゼリー50 %及び酵母エキス4 %、ブドウ糖18 %、果糖18 %を含む水溶液	
助剤(濃度%)	なし	
暴露量 (実測値に基づく有効成分値) (µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	100
死亡数/供試生物数 (72 h)	4/36 (11 %)	7/36
LD ₅₀ (µg ai/bee) (72 h)	>100	

(2) 幼虫経口毒性試験 2

セイヨウミツバチ幼虫を用いた反復経口毒性試験が実施され、120 h LD₅₀ は >58.04 µg ai /bee であった。

表 6：幼虫反復経口毒性試験（資料 5、2018 年）

被験物質	原体						
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)幼虫(3~6日齢時投与)/ 3反復、12頭/区						
準拠ガイドライン	OECD GD239						
試験期間	22 d (幼虫の期間における暴露期間は120 h)						
投与溶液	3日齢時 : ローヤルゼリー50 %及び酵母エキス3 %、ブドウ糖15 %、果糖15 %を含む水溶液 4~6日齢時: ローヤルゼリー50 %及び酵母エキス4 %、ブドウ糖18 %、果糖18 %を含む水溶液						
助剤(濃度%)	アセトン(0.5 %)						
暴露量 (実測値に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	0.85	8.73	20.25	31.91	58.04
死亡数/供試生物数 (120 h)	2/36 (5.6 %)	1/36 (2.8 %)	5/36	5/36	5/36	6/36	4/36
LD ₅₀ (µg ai/bee) (120 h)	>58.04						

3. 花粉・花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

III. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 7 に示した。

表 7：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値		
	エント・ポイント	試験1	試験2
成虫単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	>200	
成虫単回経口毒性		>163.54	
成虫反復経口毒性	10 d LDD ₅₀ (μg ai/bee/day)	>171	
幼虫経口毒性	72 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	>100	>58.04*

*反復経口毒性試験の 120 h LD₅₀、単回経口毒性試験（試験 1）が提出されていることから、毒性指標の検討には使用しない。

2. 毒性指標値

ブプロフェジンのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値は以下のとおりとした(表 8)。

(1) 成虫単回接触毒性

48 h LD₅₀ 値 (>200 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 200 μg ai/bee とした。

(2) 成虫単回経口毒性

48 h LD₅₀ 値 (>163.54 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 160 μg ai/bee とした。

(3) 成虫反復経口毒性

10 d LDD₅₀ 値 (>171 μg ai/bee/day) を採用し、毒性指標値を 170 μg ai/bee/day とした。

(4) 幼虫経口毒性

試験 1 の 72 h LD₅₀ 値 (>100 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 μg ai/bee とした。

なお、反復経口毒性試験（試験 2）は、単回経口毒性試験（試験 1）が提出されていることから、毒性指標の検討には使用しないこととした。

表 8：ブプロフェジンのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	200
	単回経口毒性		160
	反復経口毒性	10 d LDD ₅₀ (μg ai/bee/day)	170
幼虫	経口毒性	72 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	100

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD₅₀ は 11 µg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

IV. 暴露量の推計及び暴露ごとのリスク評価結果

1. ミツバチが暴露しないと想定される適用

ブプロフェジンを含む各種製剤の適用のうち、1.1~1.3 に示す適用については、その使用にあたり本剤にミツバチが暴露しないと想定されるため、暴露量の推計は行わなかった。

1.1 エアゾル剤等、一度に広範囲かつ多量に使用されることがない製剤

該当なし

1.2 適用場所が「温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所」に限られている適用

該当なし

1.3 ミツバチが暴露しないと想定される作物

(1) 開花前に収穫する作物

- | | |
|-----------|---|
| 1) あぶらな科 | 該当なし |
| 2) きく科 | ふき |
| 3) ひがんばん科 | あさつき ¹ 、にら ¹ 、ねぎ ¹ 、らっきょう ²
<small>¹ひがんばん科鱗茎類(葉物)、²ひがんばん科鱗茎類(根物)</small> |
| 4) ゆり科 | 該当なし |
| 5) せり科 | 該当なし |
| 6) ヒユ科 | 該当なし |
| 7) しょうが科 | 該当なし |
| 8) その他の作物 | いちじく |

(2) 開花しない作物（栽培管理により開花しない作物を含む）

- | | |
|---------|-------|
| 1) シダ植物 | 該当なし |
| 2) 芝 | 該当なし |
| 3) その他 | たばこ、茶 |

(3) 夜間に開花する作物

該当なし

(4) ミツバチが訪花しないとの知見のある開花作物

小麦、麦類

2. ミツバチが暴露する可能性がある適用

2.1 リスク管理措置（被害防止方法）を課す適用

該当なし

2.2 第1段階評価

ミツバチが暴露する可能性がある適用については、茎葉散布、土壌処理、種子処理のいずれかのシナリオの下、第1段階評価の対象とした。

第1段階評価は、蜂群を構成する個々のミツバチへの影響を、実験室で実施された毒性試験の結果に基づき把握し、ミツバチの死亡率が蜂群への影響が懸念される水準とならないかを評価するものである。室内での毒性試験における対照群の自然死亡率を10%まで許容していることに鑑み、ミツバチの死亡率が10%を超えなければ、蜂群への影響がないものとする。

しかしながら、ミツバチの死亡率が被験物質処理群と対照群でほぼ同じとなる処理量を試験から正確に求めるのは困難である。一方、米国で過去に実施された試験の解析により、死亡率が10%となる処理量の半数致死量（LD₅₀：ミツバチの死亡率が50%となる処理量）に対する比の平均が0.4であったとの知見がある*ことから、ミツバチの推計暴露量の半数致死量に対する比率、RQ（リスク比）の概念を導入し、RQが0.4を超えない場合には、農薬への暴露によるミツバチの死亡率は10%を超えず、蜂群への影響がないものと評価する。

*U.S.EPA（2014）, Guidance for Assessing Pesticide Risks to Bees p.32

2.2.1 茎葉散布シナリオ

2.2.1.1 スクリーニング# #：予測式を用いた推計暴露量による評価

2.2.1.1.1 暴露量の推計（スクリーニング）

「農薬のミツバチへの影響評価ガイドランス」に準拠して、表9のパラメーターを用いて、茎葉散布シナリオの予測式により暴露量の推計を行ったところ、別添2のとおり結果となった。

表9：暴露量推計に関するパラメーター（農薬付着量、摂餌量及び農薬残留量）

接触暴露			
農薬付着量(nL/bee)			70
経口暴露			
摂餌量(mg/bee/day)	成虫	花粉	9.6
		花蜜	140
	幼虫	花粉	3.6
		花蜜	120
農薬残留量(μg/g per kg/ha)	花粉・花蜜		98

2.2.1.1.2 リスク評価結果（スクリーニング）

茎葉散布シナリオのスクリーニングを行ったすべての適用について、RQが0.4を超えないことを確認した（別添2）。

2.2.1.2 精緻化##

##：花粉・花蜜残留試験等、実測値を用いた推計暴露量による評価

該当なし

2.2.2 土壌処理シナリオ

2.2.2.1 スクリーニング# #：予測式を用いた推計暴露量による評価

2.2.2.1.1 暴露量の推計（スクリーニング）

「農薬のミツバチの影響評価ガイドンス」に準拠して、表 10 のパラメーターを用いて、土壌処理シナリオの予測式により暴露量の推計を行ったところ、別添 2 のとおりの結果となった。

表 10：暴露量推計に関するパラメーター
(摂餌量、農薬残留量、log Pow（資料 6）、土壌吸着係数（資料 7）)

経口暴露			
摂餌量(mg/bee/day)	成虫	花粉	9.6
		花蜜	140
	幼虫	花粉	3.6
		花蜜	120
農薬残留量(μg/g per kg/ha)		花粉・花蜜	1.67
1-オクタノール/水分配係数(log Pow)			4.80
土壌吸着係数(K ^{ads} _{Foc})			2230

2.2.2.1.2 リスク評価結果（スクリーニング）

土壌処理シナリオのスクリーニングを行ったすべての適用について、RQ が 0.4 を超えないことを確認した（別添 2）。

2.2.2.2 精緻化## ##：花粉・花蜜残留試験等、実測値を用いた推計暴露量による評価 該当なし

2.2.3 種子処理シナリオ

該当なし

2.3 第 2 段階評価

第 1 段階評価により、すべての適用について RQ が 0.4 以下となり、蜂群への影響は懸念されないとの評価結果となったため、第 2 段階評価は不要である。

V. リスク評価結果（まとめ）

殺虫剤ブプロフェジンについて、評価資料を用いて農薬蜜蜂影響評価を実施した。

ミツバチ個体に対する毒性評価では、申請者より提出された試験成績に報告のある半数致死量（LD₅₀ または LDD₅₀）をもとにブプロフェジンのミツバチへの影響評価に用いる各種毒性指標値を以下のとおり定めた。

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	200
	単回経口毒性		160
	反復経口毒性	10 d LDD ₅₀ (μg ai/bee/day)	170
幼虫	経口毒性	72 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	100

ブプロフェジンのミツバチへの影響評価では、ブプロフェジンを有効成分として含有する各種農薬製剤の適用（作物と使用方法の組み合わせ；別添）をミツバチがブプロフェジンに「（1）明らかに暴露しない適用」及び「（2）暴露する可能性がある適用」に分類し、それぞれ検討した。

（1）明らかに暴露しない適用（IV.1.）

作物が「開花前に収穫する作物」または「栽培期間中に開花しない作物」である場合には、明らかにミツバチが暴露しないと想定されるため、蜂群への影響は懸念されないと評価した。

以下にミツバチが暴露しないと想定される適用の例を示す。

開花前に収穫する作物：にら、ねぎ等

開花しない作物（栽培管理により開花しない作物を含む）：たばこ、茶

（2）暴露する可能性がある適用（IV.2.）

ア 暴露しないとはみなせないため暴露量の推計を行った適用（IV.2.2）

ブプロフェジンを有効成分として含有する農薬製剤の適用（作物と使用方法の組み合わせ）のうち、ミツバチが暴露する可能性がある適用について、第1段階評価を実施した。

第1段階評価は、定めた毒性指標値をもとに、ミツバチの死亡率が蜂群への影響が懸念される水準である10%（自然死亡率）超とならないかを評価するものである。ミツバチの推計暴露量の半数致死量に対する比率、RQ（リスク比）の概念を導入し、RQが0.4を超えない場合には、農薬への暴露によるミツバチの死亡率は10%を超えず、蜂群への影響は懸念されないと評価した。

ミツバチがブプロフェジンに暴露する可能性がある適用は、稲や果樹等に茎葉散布する使用方法及び稲やすだちに土壌処理する使用方法であったことから、第1段階評価の暴露量の推計は、茎葉散布シナリオまたは土壌処理シナリオで行った。

第1段階評価の結果、暴露量の推計を行ったすべての適用について、スクリーニング

において RQ が 0.4 以下となったことから、蜂群への影響は懸念されないと評価した。

以上の結果、ブプロフェジンは、申請された使用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料 番号	報告年	題名, 出典 (試験施設以外の場合) 試験施設, 報告書番号 GLP 適合状況 (必要な場合), 公表の有無
1	1996	Buprofezin, Code: Hoe 064503 00 ZD99 0001, Contact toxicity (LD ₅₀) to honey bees (<i>Apis mellifera</i> L.) Hoechst Schering AgrEvo GmbH 報告書番号 : CW95/082 GLP、未公表
2	2001	Acute Oral Toxicity of Buprofezin tech. to the Honey Bee, <i>Apis mellifera</i> L. in the Laboratory GAB Biotechnologie GmbH & IFU Umweltanalytik GmbH 報告書番号 : 20011166/01-BLEU GLP、未公表
3	2014	BUPROFEZIN TECHNICAL: Effects on the Honeybee <i>Apis mellifera</i> after 10-day chronic dose exposure Harlan Laboratories Ltd. 報告書番号 : D89634 GLP、未公表
4	2014	BUPROFEZIN TECHNICAL: Effects on the <i>in vitro</i> Development of Larvae of <i>Apis mellifera</i> after single dose exposure Harlan Laboratories Ltd. 報告書番号 : D83435 GLP、未公表
5	2019	Buprofezin technical - Repeated exposure of honey bee larvae (<i>Apis mellifera</i> L.) under laboratory conditions (<i>in vitro</i>) BioChem agrar Labor für biologische und chemische Analytik GmbH 報告書番号 : DE 812651762 GLP、未公表
6	1999 (2003 修正)	Partition Coefficient in n-Octanol/Water of Buprofezin 日本農薬株式会社 報告書番号 : - 未公表
7	1991	ブプロフェジンの土壌吸着係数試験 株式会社 化学分析コンサルタント 報告書番号 : - 未公表
8	2025 (2025 修正)	ブプロフェジンの公表文献に関する報告書 公表

公表文献

該当なし

別添 1：適用病害虫の範囲及び使用方法（ブプロフェジン）

目 次

1. 登録番号 15677：アプロード水和剤 （ブプロフェジン 25.0 %水和剤）	2
2. 登録番号 16858：アプロード粉剤D L （ブプロフェジン 1.5 %粉剤）	3
3. 登録番号 17937：日農アプロードパダン粒剤、 登録番号 21822：S Tアプロードパダン粒剤 （カルタップ 4.0 %・ブプロフェジン 2.0 %粒剤）	4
4. 登録番号 19362：アプロードロムダンモンカットF粉剤D L （テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル粉剤 2.0 %）	4
5. 登録番号 19923：アプロードフロアブル （ブプロフェジン 20.0 %水和剤）	5
6. 登録番号 20003：アプロードロムダンモンカットエアー （テブフェノジド 7.5 %・ブプロフェジン 15.0 %・フルトラニル 15.0 %水和剤）	6
7. 登録番号 20106：アプロードエースフロアブル （フェンピロキシメート 4.0%・ブプロフェジン 20.0 %水和剤）	7
8. 登録番号 21801：ワイドナーエース粉剤D L （ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルト ラニル 2.0 %粉剤）	8
9. 登録番号 22063：日農ビームアプロードスタークル粉剤5 D L、 （ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）	9
1 0. 登録番号 22916：アプロードモンカットエアー （ブプロフェジン 20.0 %・フルトラニル 20.0 %水和剤）	9
1 1. 登録番号 22985：アプロードゾル （ブプロフェジン 40.0 %水和剤）	10
1 2. 登録番号 23098：アプロードイオウフロアブル （硫黄 35.5 %・ブプロフェジン 4.0 %水和剤）	10
1 3. 登録番号 23233：アプロード粒剤 （ブプロフェジン 2.0 %粒剤）	10

1. 登録番号 15677：アブロード水和剤
(ブプロフェジン 25.0 %水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ブプロフェジンを 含む農薬の 総使用回数			
みかん	カイガラムシ類幼虫	1000倍	200~700 L/10 a	収穫14日前 まで	3回 以内	散布	3回 以内			
	ミカンゲコナジラミ若齢幼虫	1000倍								
すだち	カイガラムシ類幼虫	1000倍	5 L/m ²	収穫45日前 まで	3回 以内	土壌灌注		3回 以内		
	ミカンゲコナジラミ若齢幼虫	1000倍								
	ミカンコカイガラムシ									
かんきつ(み かん、すだち を除く)		1000倍	200~700 L/10 a		2回 以内	2回 以内				
なし		1000倍					収穫30日前 まで	2回 以内	2回 以内	
							収穫14日前 まで	3回 以内	3回 以内	
							開花期まで 但し、収穫 45日前まで	2回 以内	2回 以内	
							収穫後~落 葉前			
	収穫14日前 まで									
かき	カイガラムシ類幼虫						収穫7日前 まで		2回 以内	2回 以内
うめ				収穫前日ま で						
すもも				収穫3日前 まで			1回	1回		
びわ										
くり										
キウイフルーツ	カイガラムシ類幼虫 キウイメモコバイ									
さんしょう (果実)	カイガラムシ類幼虫									
稲	ツマグロヨコバイ幼虫 ウンカ類幼虫	1000~ 2000倍	60~150 L/10 a	収穫7日前 まで	4回 以内	散布	4回 以内			
		300倍	25 L/10 a							
小麦	ヒメビウナ幼虫	1000~ 2000倍	60~150 L/10 a	収穫前日ま で	3回 以内	散布	3回 以内			
きゅうり	オンシツコナジラミ幼虫		100~300 L/10 a					収穫前日ま で		
トマト									タバココナジラミ類幼虫(シルバー リーフコナジラミ幼虫を含む)	1000倍

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ブプロフェジンを含む農薬の 総使用回数
なす	オンシツコナジラミ幼虫	1000~ 2000倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3回 以内	散布	3回 以内
	タバココナジラミ類幼虫(シルバー リーフコナジラミ幼虫を含む) チャノホリダニ幼虫	1000倍		収穫21日前 まで			
ふき	タバココナジラミ類幼虫(シルバー リーフコナジラミ幼虫を含む)		1000倍	1000 L/10 a	摘採14日前 まで		2回 以内
茶	クワシカイカラムシ若齢幼虫	200~400 L/10 a					
	チャノミドリヒメヨコバイ幼虫 チャトゲコナジラミ						
たばこ	オンシツコナジラミ幼虫	2000倍	25~180 L/10 a	発生初期			
桑	ヒシモンヨコバイ幼虫 ハゴロモ類幼虫	1000倍	200~700 L/10 a		4回 以内		4回 以内
ホーインセア	オンシツコナジラミ幼虫	1000倍	100~300 L/10 a		6回 以内		6回 以内
	タバココナジラミ類幼虫(シルバー リーフコナジラミ幼虫を含む)	1000倍					
ガーベラ	オンシツコナジラミ幼虫						

2. 登録番号 16858 : アプロード粉剤DL (ブプロフェジン 1.5 %粉剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ブプロフェジンを含む 農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ幼虫 ウカ類幼虫	3~4 kg/10 a	収穫7日前まで	4回 以内	散布	4回 以内
小麦	ヒメトビウカ幼虫	3 kg/10 a		3回 以内		3回 以内

3. 登録番号 17937 : 日農アプロードパダン粒剤、
登録番号 21822 : S Tアプロードパダン粒剤
(カルタップ 4.0 %・ブプロフェジン 2.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法
稲	ニカメイチュウ コブノメイガ ウンカ類幼虫 イネトムシ	3~4 kg/10 a	収穫30日前まで	4回 以内	湛水散布

カルタップを含む 農薬の総使用回数	ブプロフェジンを含む 農薬の総使用回数
6回以内(浸種前は1回以内、浸種 後から直播での種時又は移 植時までの処理は1回以内)	4回 以内

4. 登録番号 19362 : アプロードロムダンモンカットF粉剤DL
(テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル粉剤 2.0 %粉剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	テブフェノジドを 含む農薬の 総使用回数	ブプロフェジンを 含む農薬の 総使用回数	フルトラニルを 含む農薬の 総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ ニカメイチュウ イネトムシ フタホヒコヤガ 紋枯病	3~4 kg/10 a	収穫14日 前まで	2回 以内	散布	2回 以内	4回 以内	4回 以内

5. 登録番号 19923 : アプロードフロアブル
(ブプロフェジン 20.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ブプロフェジンを 含む農薬の 総使用回数	
稲	ツマグロヨコバイ幼虫 ウンカ類幼虫	1000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日 前まで	4 回 以内	散布	4 回 以内	
		300 倍	25 L/10 a					
みかん	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200~700 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回 以内		3 回 以内	
かんきつ(みかんを除く)	ミカンゲコナジラミ若齢幼虫			収穫 45 日 前まで				
りんご	カイガラムシ類幼虫	1000~ 1500 倍		収穫 30 日 前まで	2 回 以内		2 回 以内	
なし		1000 倍		収穫 14 日 前まで	3 回 以内		3 回 以内	
もも				収穫 7 日 前まで	2 回 以内		2 回 以内	
ネктリン うめ くるみ				収穫 14 日 前まで				
すもも いちじく パッションフルーツ				収穫 30 日 前まで	1 回		1 回	
あんず				1000~ 1500 倍	収穫 7 日 前まで		2 回 以内	2 回 以内
おうとう				1000 倍	収穫 30 日 前まで			
ぶどう		3000 倍		収穫 3 日 前まで				
パイナップル	フタテンヒメヨコバイ幼虫							
マンゴー	カイガラムシ類幼虫 チャノホリタニ	1000 倍						
ねぎ にら	ネギニ類	500~ 1000 倍	1~3 L/m ²	収穫 14 日 前まで	1 回	株元 灌注	1 回	
あさつき(伏せ 込み栽培)		500 倍	3 L/m ²	植付時				
らっきょう			250 倍	-	植付前	2 回以内	30 分間 種球 浸漬	3 回以内(種 球への処理は 1 回以内、 株元灌注は 2 回以内)
			500 倍	1~3 L/m ²	収穫 21 日 前まで		株元 灌注	
茶	クワシカイガラムシ若齢幼虫	1000 倍	1000 L/10 a	摘採 14 日 前まで	2 回 以内	散布	2 回 以内	

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ブプロフェジンを含む農薬の 総使用回数
アカギ	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200~700 L/10 a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回 以内
	アカギヒメヨコバイ幼虫	1000~ 3000 倍					
そてつ	カイガラムシ類幼虫	3000 倍	200~700 L/10 a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回 以内

6. 登録番号 20003 : アプロードロムダンモンカットエアー

(テブフェノジド 7.5 %・ブプロフェジン 15.0 %・フルトラニル 15.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	テブフェノジドを含む農薬の 総使用回数	ブプロフェジンを含む農薬の 総使用回数	フルトラニルを含む農薬の 総使用回数
稲	ウンカ類幼虫 ツマグロヨコバイ	750倍	60~150 L/10 a	収穫21日 前まで	2回 以内	散布	2回 以内	4回 以内	4 回 以内
	幼虫 コブノメイガ ニカメイチュウ 紋枯病	6倍	800 mL/10 a			無人航空機 による散布			

7. 登録番号 20106 : アブロードエースフロアブル

(フェンピロキシメート 4.0 %・ブプロフェジン 20.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	フェンピロキシメート を含む農薬の 総使用回数	ブプロフェジンを 含む農薬の 総使用回数			
みかん	カイガラムシ類	1000 倍	200~700 L/10 a	収穫 14 日前まで	2 回 以内	散布	2 回 以内	3 回 以内			
	ミカンサビダニ	1000~ 2000 倍									
	チャノホリダニ	2000 倍									
かんきつ (みかんを 除く)	カイガラムシ類	1000 倍		収穫 45 日前まで							
	ミカンサビダニ	1000~ 2000 倍									
	チャノホリダニ	2000 倍									
なし	カイガラムシ類 ニセミカンサビダニ	1000 倍		200~700 L/10 a	収穫 30 日前まで		1 回	1 回	2 回 以内		
ぶどう	カイガラムシ類 ブドウハモグリダニ				収穫 7 日 前まで		2 回 以内	1 回		2 回 以内	3 回 以内
おうとう ネクリン うめ	カイガラムシ類									収穫 14 日前まで	
もも							1 回	1 回	2 回 以内		
すもも								1 回		2 回 以内	2 回 以内
いちじく	1 回				1 回		2 回 以内				
キウイフルーツ					カイガラムシ類 キウイメモコバイ			100~300 L/10 a	収穫前日 まで	3 回 以内	3 回 以内
トマト	コナジラミ類		1000~ 2000 倍								
	トマトサビダニ	1000 倍									
なす	コナジラミ類	1000~ 2000 倍	2 回 以内		3 回 以内		2 回 以内			2 回 以内	
	チャノホリダニ	1000 倍									
とうがら し類	1000 倍										3 回 以内
きゅうり	コナジラミ類		1000~ 2000 倍								
すいか メロン	1000 倍	1000 L/10 a	摘採 14 日前まで	2 回 以内	2 回 以内		2 回 以内				
茶								カイガラムシ類		200~400 L/10 a	
								チャノミドリヒメコバイ			
	チャノホリガ										
	チャノホリダニ										
ガーベラ	チャノナガサビダニ	100~300 L/10 a	発生初期	6 回 以内	6 回 以内		6 回 以内				
	チャトゲコナジラミ										

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	フェンピロキシメート を含む農薬の 総使用回数	ブプロフェジンを 含む農薬の 総使用回数
しきみ	シキミハナカブシダニ	32 倍	22 L/10 a	発生初期	2 回 以内	無人航空 機による 散布	2 回 以内	6 回 以内
ポインセチア	コナシラミ類	1000 倍	100~300 L/10 a	発生初期	6 回 以内	散布	6 回 以内	6 回 以内

8. 登録番号 21801：ワイドナーエース粉剤DL

(ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法
稲	紋枯病 ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメシロ類 コブノメイガ ニカメイチュウ イネツトムシ フタホシコヤガ いもち病	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布

ジノテフランを含む 農薬の総使用回数	テブフェノジドを含む 農薬の総使用回数	ブプロフェジンを 含む農薬の総使用回数	フサライドを含む 農薬の総使用回数	フルトラニルを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (育苗箱への処理及 び側条施用は合計 1 回以内、本田での 散布、空中散布、無人 航空機散布は合計 3 回以内)	2 回以内	4 回以内	3 回以内	4 回以内

9. 登録番号 22063 : 日農ビームアプロードスタークル粉剤 5 D L、(ジノテフラン
0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを 含む農薬の 総使用回数	ブプロフェジンを 含む農薬の 総使用回数	トリシクラゾールを 含む農薬の 総使用回数
稲	ウカ類 カメシ類 ツマグロヨコバイ いもち病	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処 理及び側条施用 は合計 1 回以 内、本田での散 布、空中散布、無 人ヘリ散布は合計 3 回以内)	4 回以 内	4 回以内 (育苗箱への 処理は 1 回 以内、本田で は 3 回以内)

10. 登録番号 22916 : アプロードモンカットエアー
(ブプロフェジン 20.0 %・フルトラニル 20.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ブプロフェジン を含む 農薬の総 使用回数	フルトラニル を含む 農薬の総 使用回数
稲	ウカ類幼虫 ツマグロヨコバイ幼虫 紋枯病	1000倍	60~150 L/10 a	収穫14日 前まで	4回 以内	散布	4回 以内	4 回 以内
		8倍	800 mL/10 a			無人航空機 による散布		

1 1. 登録番号 22985 : アプロードゾル
(ブプロフェジン 40.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ブプロフェジン を含む農薬の 総使用回数
稲	ツマゲロコバエ幼虫 ウカ類幼虫	16倍	0.8 L/10 a	収穫7日前まで	4回 以内	無人航空機に よる散布	4回 以内
		60倍	3 L/10 a			空中散布	
		16倍	0.8 L/10 a	水田耕起前			
		60倍	3 L/10 a				
麦類	ヒメヒゲウカ幼虫	2000倍	60~150 L/10 a	収穫7日前まで	3回 以内	散布	3回 以内
		16倍	0.8 L/10 a			無人航空機に よる散布	

1 2. 登録番号 23098 : アプロードイオウフロアブル
(硫黄 35.5 %・ブプロフェジン 4.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	硫黄を含む 農薬の 総使用回数	ブプロフェジン を含む農薬の 総使用回数
みかん	カイラムシ類幼虫	250 倍	200~700 L/10 a	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	散布	-	3 回 以内
かんきつ (みかんを除く)	ミカンサビダニ チャノホリダニ			収穫 45 日 前まで				

1 3. 登録番号 23233 : アプロード粒剤
(ブプロフェジン 2.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ブプロフェジンを含む 農薬の総使用回数
稲	ウカ類幼虫	3~4 kg/10 a	収穫7日前まで	4回 以内	湛水散布	4回 以内

別添 2：適用病害虫の範囲及び使用方法（ブプロフェジン）

目 次

1. 登録番号 15677：アプロード水和剤 （ブプロフェジン 25.0 %水和剤）	2
2. 登録番号 16858：アプロード粉剤D L （ブプロフェジン 1.5 %粉剤）	4
3. 登録番号 17937：日農アプロードパダン粒剤、 登録番号 21822：S Tアプロードパダン粒剤 （カルタップ 4.0 %・ブプロフェジン 2.0 %粒剤）	4
4. 登録番号 19362：アプロードロムダンモンカットF粉剤D L （テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル粉剤 2.0 %）	5
5. 登録番号 19923：アプロードフロアブル （ブプロフェジン 20.0 %水和剤）	6
6. 登録番号 20003：アプロードロムダンモンカットエアー （テブフェノジド 7.5 %・ブプロフェジン 15.0 %・フルトラニル 15.0 %水和剤）	8
7. 登録番号 20106：アプロードエースフロアブル （フェンピロキシメート 4.0 %・ブプロフェジン 20.0 %水和剤）	9
8. 登録番号 21801：ワイドナーエース粉剤D L （ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルト ラニル 2.0 %粉剤）	11
9. 登録番号 22063：日農ビームアプロードスタークル粉剤5 D L （ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤）	11
1 0. 登録番号 22916：アプロードモンカットエアー （ブプロフェジン 20.0 %・フルトラニル 20.0 %水和剤）	12
1 1. 登録番号 22985：アプロードゾル （ブプロフェジン 40.0 %水和剤）	12
1 2. 登録番号 23098：アプロードイオウフロアブル （硫黄 35.5 %・ブプロフェジン 4.0 %水和剤）	13
1 3. 登録番号 23233：アプロード粒剤 （ブプロフェジン 2.0 %粒剤）	13

1. 登録番号 15677 : アプロード水和剤
(ブプロフェジン 25.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
みかん	カイガラムシ類 幼虫等	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
すだち	カイガラムシ類 幼虫等	1000	700 L/10 a	収穫45日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
	ミカンネコナカイ ガラムシ	1000	5 L/m ²	収穫45日 前まで	土壌 灌注	土壌 処理	PN	13	-	21	-	3.1	2.6	-	0.019	0.018	0.026	不要
かんきつ(み かん、すだち を除く)	カイガラムシ類 幼虫等	1000	700 L/10 a	収穫45日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
なし	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫30日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
もも	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
かき	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	開花期ま で 但し、 収穫45日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
うめ	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫後～落 葉前	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
すもも	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
びわ	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
くり	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
キウイフルーツ	カイガラムシ類 幼虫等	1000	700 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	P	1.8	0.025	170	0.018	1.7	0.62	0.000088	0.010	0.0097	0.0062	不要
さんしょう (果実)	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫3日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要

作物名	適用 病虫害名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ツマグロヨコバイ幼虫等	1000	150 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	P	0.38	0.025	37	0.018	0.35	0.13	0.000088	0.0022	0.0021	0.0013	不要
		300	25 L/10 a		散布	茎葉 散布	P	0.21	0.083	20	0.058	0.20	0.074	0.00029	0.0012	0.0012	0.00074	不要
小麦	ヒメトビウンカ幼虫	1000	150 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要
きゅうり	オシツコナジラミ幼虫	1000	300 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	PN	0.75	0.025	74	0.018	11	9.1	0.000088	0.069	0.065	0.091	不要
トマト	オシツコナジラミ幼虫等	1000	300 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	P	0.75	0.025	74	0.018	0.71	0.26	0.000088	0.0044	0.0042	0.0026	不要
なす	オシツコナジラミ幼虫等	1000	300 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	P	0.75	0.025	74	0.018	0.71	0.26	0.000088	0.0044	0.0042	0.0026	不要
ふき	タバココナジラミ類幼虫(シルバーリーフコナジラミ幼虫を含む)	1000	300 L/10 a	収穫21日 前まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要
茶	クワシロカバムシ若齢幼虫	1000	1000 L/10 a	摘採14日 前まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要
	チャノミトリヒメヨコバイ幼虫等		400 L/10 a															
たばこ	オシツコナジラミ幼虫	2000	180 L/10 a	発生初期	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要
桑	ヒシモンヨコバイ幼虫等	1000	700 L/10 a	発生初期	散布	茎葉 散布	PN	1.8	0.025	170	0.018	26	21	0.000088	0.16	0.15	0.21	不要
ポインセチア	オシツコナジラミ幼虫等	1000	300 L/10 a	発生初期	散布	茎葉 散布	PN	0.75	0.025	74	0.018	11	9.1	0.000088	0.069	0.065	0.091	不要
カーベラ	オシツコナジラミ幼虫	1000	300 L/10 a	発生初期	散布	茎葉 散布	PN	0.75	0.025	74	0.018	11	9.1	0.000088	0.069	0.065	0.091	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

2. 登録番号 16858 : アプロード粉剤 D L
(ブプロフェジン 1.5 %粉剤)

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ツマゲロヨコバイ幼虫等	4 kg/10 a	収穫 7日前 まで	散布	茎葉 散布	P	0.60	1.5	59	1.1	0.56	0.21	0.0053	0.0035	0.0033	0.0021	不要
小麦	ヒメビロウカ幼虫	3 kg/10 a	収穫 7日前 まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

3. 登録番号 17937 : 日農アプロードパダン粒剤、
登録番号 21822 : S Tアプロードパダン粒剤
(カルタップ 4.0 %・ブプロフェジン 2.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ニカメイチュウ等	4 kg/10 a	収穫 30日前 まで	4000	湛水 散布	土壌 処理	P	0.80	1.3	-	0.013	0.0048	-	0.000080	0.000075	0.000048	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

4. 登録番号 19362 : アプロードロムダンモンカット F 粉剤 D L

(テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.5 %・フルトラニル粉剤 2.0 %)

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナリオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ツマグロヨコバイ等	4 kg/10 a	収穫 14日前 まで	散布	茎葉 散布	P	0.60	1.5	59	1.1	0.56	0.21	0.0053	0.0035	0.0033	0.0021	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

5. 登録番号 19923 : アプロードフロアブル
(ブプロフェジン 20.0 %水和剤)

物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ツマグ・ロヨコバ イ幼虫等	1000	150 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	P	0.30	0.020	29	0.014	0.28	0.11	0.000070	0.0018	0.0017	0.0011	不要
		300	25 L/10 a		散布	茎葉 散布	P	0.17	0.067	16	0.047	0.16	0.059	0.00023	0.00098	0.00092	0.00059	不要
みかん	カイガラムシ類 幼虫等	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
かんきつ(み かん、すだち を除く)	カイガラムシ類 幼虫等	1000	700 L/10 a	収穫45日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
りんご	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫30日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
なし	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫30日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
もも	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
ネктリン	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
うめ	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
くるみ	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
すもも	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
いちじく	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要
パッションフルーツ	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
あんず	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫30日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要

作物名	適用 病虫害名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
おうとう	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
ぶどう	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫30日 前まで	散布	茎葉 散布	P	1.4	0.020	140	0.014	1.3	0.49	0.000070	0.0082	0.0077	0.0049	不要
	フタテンヒメヨコ バイ幼虫	3000						0.47	0.0067	46	0.0047	0.44	0.16	0.000023	0.0027	0.0026	0.0016	不要
パイナップル	パイナップルコ ナカイガラムシ 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫30日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
マンゴー	カイガラムシ類 幼虫等	1000	700 L/10 a	収穫3日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
ねぎ	ネギニ類	500	3 L/m ²	収穫14日 前まで	株元 灌注	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要
にら		500	3 L/m ²	収穫14日 前まで	株元 灌注													不要
あさつき(伏 せ込み栽培)		500	3 L/m ²	植付時	株元 灌注													不要
らっきょう		250	-	植付前	30分 間種 球浸 漬													不要
		500	3 L/m ²	収穫21日 前まで	株元 灌注													
茶	クシロカイラ ムシ若齢幼 虫	1000	1000 L/10 a	摘採14日 前まで	散布													不要
アザミ	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	発生初期	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
	アザミヒメヨコ バイ幼虫	1000																
そてつ	カイガラムシ類 幼虫	3000	700 L/10 a	発生初期	散布	茎葉 散布	P	0.47	0.0067	46	0.0047	0.44	0.16	0.000023	0.0027	0.0026	0.0016	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

6. 登録番号 20003 : アプロードロムダンモンカットエアー

(テブフェノジド 7.5 %・ブプロフェジン 15.0 %・フルトラニル 15.0 %水和剤)

作物名	適用 病害 虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ウカ類 幼虫等	750	150 L/10 a	収穫21日 前まで	散布	茎葉 散布	P	0.30	0.020	29	0.014	0.28	0.11	0.000070	0.0018	0.0017	0.0011	不要
		6	800 mL/10 a		無人航空 機による 散布			0.20	2.5	20	1.8	0.19	0.071	0.0088	0.0012	0.0011	0.00071	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

7. 登録番号 20106 : アプロードエースフロアブル

(フェンピロキシメート 4.0 %・ブプロフェジン 20.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
みかん	カイガラムシ類	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
	ミカンサビダニ																	
	チャノホリダニ	2000						0.70	0.010	69	0.0070	10	8.5	0.000035	0.064	0.060	0.085	不要
かんきつ (みかん、す だちを除 く)	カイガラムシ類	1000	700 L/10 a	収穫45日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
	ミカンサビダニ																	
	チャノホリダニ	2000						0.70	0.010	69	0.0070	10	8.5	0.000035	0.064	0.060	0.085	不要
なし	カイガラムシ類 等	1000	700 L/10 a	収穫30日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
ぶどう	カイガラムシ類 等	1000	700 L/10 a	収穫30日 前まで	散布	茎葉 散布	P	1.4	0.020	140	0.014	1.3	0.49	0.000070	0.0082	0.0077	0.0049	不要
おうとう	カイガラムシ類	1000	700 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
ネクタリン	カイガラムシ類	1000	700 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
うめ	カイガラムシ類	1000	700 L/10 a	収穫7日前 まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
もも	カイガラムシ類	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
すもも	カイガラムシ類	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.020	140	0.014	21	17	0.000070	0.13	0.12	0.17	不要
いちじく	カイガラムシ類 幼虫	1000	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要
キウイフルーツ	カイガラムシ類 等	1000	700 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	P	1.4	0.020	140	0.014	1.3	0.49	0.000070	0.0082	0.0077	0.0049	不要

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
トマト	コナジラミ類	1000	300	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	P	0.60	0.020	59	0.014	0.56	0.21	0.000070	0.0035	0.0033	0.0021	不要
	トマトサビダニ	1000	L/10 a															
なす	コナジラミ類	1000	300	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	P	0.60	0.020	59	0.014	0.56	0.21	0.000070	0.0035	0.0033	0.0021	不要
	チャノホコリダニ		L/10 a															
とうがらし類	コナジラミ類	1000	300 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	PN	0.60	0.020	59	0.014	8.8	7.3	0.000070	0.055	0.052	0.073	不要
きゅうり	コナジラミ類	1000	300 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	PN	0.60	0.020	59	0.014	8.8	7.3	0.000070	0.055	0.052	0.073	不要
すいか	コナジラミ類	1000	300 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	PN	0.60	0.020	59	0.014	8.8	7.3	0.000070	0.055	0.052	0.073	不要
メロン	コナジラミ類	1000	300 L/10 a	収穫前日 まで	散布	茎葉 散布	PN	0.60	0.020	59	0.014	8.8	7.3	0.000070	0.055	0.052	0.073	不要
茶	カイガラムシ類	1000	1000 L/10 a	摘採14日 前まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)												不要
	チャノミドリヒメヨコバイ等		400 L/10 a															
ガーベラ	コナジラミ類	1000	300 L/10 a	発生初期	散布	茎葉 散布	PN	0.60	0.020	59	0.014	8.8	7.3	0.000070	0.055	0.052	0.073	不要
しきみ	シキミハリナガフシ ダニ	32	22 L/10 a	発生初期	無人 航空 機に よる 散布	茎葉 散布	PN	1.4	0.63	130	0.44	20	17	0.0022	0.13	0.12	0.17	不要
ポインセチア	コナジラミ類	1000	300 L/10 a	発生初期	散布	茎葉 散布	PN	0.60	0.020	59	0.014	8.8	7.3	0.000070	0.055	0.052	0.073	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

8. 登録番号 21801 : ワイドナーエース粉剤 D L

(ジノテフラン 0.35 %・テブフェノジド 0.75 %・ブプロフェジン 1.0 %・フサライド 2.5 %・フルトラニル 2.0 %粉剤)

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナリオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	紋枯病等	4 kg/10 a	収穫 14日前 まで	散布	茎葉 散布	P	0.40	1.0	39	0.70	0.38	0.14	0.0035	0.0024	0.0022	0.0014	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

9. 登録番号 22063 : 日農ビームアプロードスタークル粉剤 5 D L

(ジノテフラン 0.35 %・ブプロフェジン 1.0 %・トリシクラゾール 0.50 %粉剤)

作物名	適用 病虫害名	最大 使用量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナリオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (µg/g)	推計暴露量 (µg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
										接触	経口		接触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	カメノ類等	4 kg/10 a	収穫 14日前 まで	散布	茎葉 散布	P	0.40	1.0	39	0.70	0.38	0.14	0.0035	0.0024	0.0022	0.0014	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

10. 登録番号 22916 : アプロードモンカットエアー

(ブプロフェジン 20.0 %・フルトラニル 20.0 %水和剤)

作物名	適用 病害 虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナリオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ツマグロ ヨバイ 幼虫等	1000	150 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	P	0.30	0.020	29	0.014	0.28	0.11	0.000070	0.0018	0.0017	0.0011	不要
		8	800 mL/10 a		無人航空 機による 散布			0.20	2.5	20	1.8	0.19	0.071	0.0088	0.0012	0.0011	0.00071	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

11. 登録番号 22985 : アプロードゾル

(ブプロフェジン 40.0 %水和剤)

作物名	適用 病害 虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナリオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bee)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
稲	ツマグロヨコバイ幼虫等	16	0.8 L/10 a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	茎葉散布	P	0.20	2.5	20	1.8	0.19	0.071	0.0088	0.0012	0.0011	0.00071	不要
		60	3 L/10 a		空中散布			0.20	2.5	20	1.8	0.19	0.071	0.0088	0.0012	0.0011	0.00071	不要
		60	0.8 L/10 a	水田耕起前				0.20	0.67	20	0.47	0.19	0.071	0.0023	0.0012	0.0011	0.00071	不要
		16	0.8 L/10 a					0.20	2.5	20	1.8	0.19	0.071	0.0088	0.0012	0.0011	0.00071	不要
		60	3 L/10 a					0.20	0.67	20	0.47	0.19	0.071	0.0023	0.0012	0.0011	0.00071	不要
		麦類	ヒメトビウカ幼虫	2000	150 L/10 a			収穫7日前まで	散布	ミツバチが暴露しないと想定されるため暴露量の推計不要 (ミツバチが暴露しないと想定される作物)								
16	0.8 L/10 a			無人航空機による散布														

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

1 2. 登録番号 23098 : アプロードイオウフロアブル
(硫黄 35.5 %・ブプロフェジン 4.0 %水和剤)

作物名	適用 病害虫名	最小 希釈 倍率 (倍)	最大 使用 液量	使用 時期	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	散布液/ 粉中 有効成分 濃度(%)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bec)			推計暴露量/毒性指標				被害 防止 方法
											接触	経口		接触	経口			
												成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復	幼虫	
みかん	カイガラムシ類 幼虫等	250	700 L/10 a	収穫14日 前まで	散布	茎葉 散布	PN	1.1	0.016	110	0.011	16	14	0.000056	0.10	0.097	0.14	不要
かんきつ (みかんを除く)				収穫45日 前まで														

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)

1 3. 登録番号 23233 : アプロード粒剤
(ブプロフェジン 2.0 %粒剤)

作物名	適用 病害虫名	最大 使用量	使用 時期	最大 使用量 (g/10a)	使用 方法	暴露 シナ リオ	※	有効 成分 投下量 (kg ai/ha)	推計 花粉・ 花蜜 濃度 (μg/g)	推計暴露量 (μg/bec)			推計暴露量/毒性指標			被害 防止 方法	
										接 触	経口		接 触	経口			
											成虫	幼虫		成虫/ 単回	成虫/ 反復		幼虫
稲	カメノキ類幼虫	4 kg/10 a	収穫 7日前 まで	4000	湛水 散布	土壌 処理	P	0.80	1.3	-	0.013	0.0048	-	0.000080	0.000075	0.000048	不要

※：適用作物の花粉・花蜜の有無 (P：花粉, N：花蜜)